

## 令和元年度 第9回白石町協働による地域づくり検討委員会 議事録

- 開催日時：令和2年1月17日（金）午後7時～午後8時3分
- 開催場所：白石町役場3階 大会議室
- 出席委員：五十嵐委員長、森副委員長、西山委員、上野委員、内野委員、吉田委員、小柳委員、島ノ江委員、東島委員、片渕委員、丸田委員、原崎委員、林委員、山下委員
- 事務局：百武副町長、松尾総務課長（山口総務課長補佐代理出席）、小池企画財政課長、木須白石創生推進専門監、谷崎企画財政課長補佐、筒井白石創生推進係長、柴田白石創生推進係主任、藤井白石創生推進係主事、久原政策推進係長、川崎政策推進係主事、田中政策推進係主事

### 《 議 事 録 》

午後7時 開会

#### 1. 開会

#### 2. 委員長あいさつ

##### ○委員長

前回、第8回検討委員会が8月で久々の委員会になる。この間、モデル事業という形で、須古地区で先行して協働のまちづくりのための準備委員会設立に向けて検討を行ってきた。今日は途中経過等も含めて、今後検討委員会として協働のまちづくりを進める方向性などについて意見をもらいたいと思う。

#### 3. 協議事項

##### （1）第8回検討委員会の振り返り

##### ○委員長

協議事項（1）第8回検討委員会の振り返りについて事務局から説明をお願いします。

##### ○事務局

（資料2）令和元年度第8回検討委員会の議事録。詳細な内容の説明は省くが、8月9日に開催し、改めて白石町における町民協働のまちづくりについて、地域内の様々な団体が話し合い連携していく「地域づくり協議会」の設立を進めていくことを説明した。また、今年度協議する内容として、本日説明する協議会設立後の活動に対する支援、また令和元年度のモデル地区決定の経緯などについて報告した。この議事録については、

ホームページで公開するので、内容について確認してもらい修正等があれば事務局へ連絡をお願いしたい。

## (2)「町民協働によるまちづくり」モデル事業について

### ○委員長

協議事項(2)「町民協働によるまちづくり」モデル事業について事務局から説明をお願いします。

### ○事務局

(資料3)1月27日に発足する須古地区地域づくり協議会設立準備委員会のスケジュール。1年半をかけて協議会を設立する予定。

令和元年度については、9月～11月に中心メンバーの打ち合わせを3回行った。1回目は地域づくり計画の方向性の検討、全体スケジュール等の確認、2回目は地域づくり計画の方向性の決定、準備委員会メンバーの候補出し、3回目は地域づくり協議会設立までのスケジュールの決定、基本方針案の決定、準備委員会のメンバーの確定で、須古地区については事前打合せのメンバーがほぼそのまま準備委員会のメンバーとなっている。現在中心メンバーの打合せまで終了し、詳細については後で説明する。そして、1月から準備委員会がスタートし、1回目は1月27日に開催する予定で、計画の基本方針案の検討、地域課題の共有と優先課題を検討する。2回目の準備委員会でワークショップの開催準備後ワークショップを行い、地域住民へ計画の基本方針の説明、ありがたい未来から今を話し合うということで、地区内の住民による課題の発見が主なテーマになると考えている。3回目の準備委員会でワークショップ結果を整理して、計画基本方針を改良・検討し、ワークショップ結果のお知らせ内容についても検討してもらう。下に図があるが、Aが9月～11月の中心メンバー打合せ、Bが準備委員会とワークショップで、このAとBが令和元年度に須古地区で行われる会議となる。そして、Bのワークショップまでの1つのサイクルが、令和2年度のCとDの2回同じ行程を行い、整理をした後、地域づくり協議会への活動へ移行するイメージになっている。

令和2年度については、準備委員会の4回目、5回目で2回目のワークショップの開催準備を行う。5月に2回目のワークショップを開催し、未来から、地域による地域づくりを話し合うということで、1回目のワークショップで出てきた課題に対して、どのような対応策があるのかを話し合うようなイメージ。6回目の準備委員会で2回目のワークショップの結果の整理・検討を行い、地域住民に知らせる内容の確認後チラシを作成して住民に知らせる。準備委員会の7回目、8回目で3回目のワークショップの開催準備を行い、8月に3回目のワークショップを開催し、10年後の姿を実現していく地域づくり協議会と計画の確認、課題と対応策について地域住民で最終確認をするイメージ。9回目の準備委員会で3回目のワークショップの結果を整理して、計画案の検討をしていく。10回目の準備委員会で組織体制の確認、計画案の確認、事務手続き等書面

の作成など地域づくり協議会設立準備の協議を行う。11回目の準備委員会で組織体制の確定、計画案の確定、事業計画案の確定などを行い協議会の設立準備が完了する。12月には報告会を行い、地域住民に地域づくり協議会および地域づくり計画案を報告する予定。1月～2月は、地域づくり協議会設立の周知と参加の呼びかけを行い、この間に実際の詳しい事業計画や予算案なども作成していく。そして3月には地域づくり協議会を設立し、活動を開始してもらう。ほぼ毎月話し合い、ワークショップを開催する時は2回の話し合いを行うスケジュールとなっている。

#### ○委員長

今年度3月までの計画と来年度（令和2年度）の準備委員会の計画についての説明だった。スケジュール内の地域住民というのは、須古地区の住民と理解してもらいたい。最低でも1カ月に1回準備委員会が開催されるので、なかなか大変だと思うが、その間にワークショップを開催しながら、多くの住民の参加を得て、みんなで地域づくり協議会を作っていくという考え方に基づくプロセスである。須古地区の関係者にこれまでの取り組みも含めて補足説明をお願いしたい。

#### ○委員

役場の担当課の誘導とファシリテーターのリズミカルな言葉によって、会議が進行していると思う。私たちが思っていることは、他のみんなも思っていて、話し合いが発展的になれば良いと思う。一番良かったのは、区長会や公民館長会、民生委員会、生産組合などの各団体が、一堂に会する機会が今回初めてで、みんなが協議会の必要性を改めて感じている。若いPTAの人が区長と楽しく歓談したり、女性も役職に付いていかなければならないと言ってもらったりするなど、準備委員会で洗い出しをしながら、ワークショップにもつなげていけたら良いと思う。ぜひ検討委員会委員も地域の住民と話し合い、地域づくり協議会設立に向けて進むことを望んでいる。

#### ○委員長

地区在住委員からこれまでの取り組みについての感想等を話してもらった。今まで色々な活動をしている団体があることは知っているが、それぞれの団体の活動内容をみんなで共有できる場があることが極めて重要で、これからはそれぞれの活動団体が抱えている課題の解決に向けてみんなで協力し合う。あるいは、足りない活動があればみんなで考えて新しい活動のアクションを起こすなど、色々な展開が考えられてくると思う。まずは中心メンバーの打合せがあって、これから準備委員会が発足するので、より具体的な活動の方向性が見えてくるのではないかと思う。地域での会議等の開催に際しては、必ず役場の担当者が出向いてサポートし、ファシリテーターの支援がある形で、まさに行政と地区住民との協働で進めていくことになると思うので、そういう意味で、須古地区の実践は今後の他地区への波及効果を考えても、極めて重要なものであると思う。具体的にどのようなことが協議されたのか資料4の説明をお願いしたい。

#### ○事務局

(資料4)ファシリテーターの須古校区地域づくり協議会設立準備に係る事前打合せ(全3回)の報告書で説明する。事前打合せの目的としては、協議会での検討に向け話し合いの骨格を作る。ゴールとして、須古の未来像と協議会の方向性案ができた。第1回の打合せは、今の想いと、課題の確認ということで話し合いが行われている。そこで出た内容としては、防災や災害は共通の課題、切羽詰まらないとなかなか動かない分役員が走り回っている。役員のなり手が減っていて会が消滅している場合もある。知り合う機会や場が変わってきた。昔で言えば、三夜待は家で行っていたが、今は居酒屋に変わり、三夜待で近所やその家の人の顔を覚えていたが、お店で行うことで顔が分からない。その他にも、子どもたちが須古に残らない、店舗が少なく買い物に困るというような話が出ている。第2回の打合せは、どんな協議会、どんな未来だったらいいなということで、方向性についての話し合いが行われている。協議会については、自分達だけでは決められない問題を解決・実行まで持っていけるところ、須古に何かがあった時に投げかけられ、振り分けもできる須古の窓口。須古の未来については、防災、災害時にお互いの地区で助け合える、文化を引き継いでいく、子どもを取り巻くことが十分にできる、「農」を伝え稼ぐなどの意見が出されているところである。3回目の打合せでは、須古地区で今何が起きているのか各地区の課題の整理と共有が行われている。第1回～第3回事前打合せの意見の整理だが、つくっていききたい須古の未来は、目標とする2000何年の須古の様子と、協議会の方向性として須古の暮らしの窓口のような協議会を基本方針案として決定されている。

#### ○委員長

須古地区での3回に及ぶ事前打合せの報告だった。何か質問・意見はないか。

#### ○委員

3回の事前打合せについて、須古校区の住民へのお知らせはどのような方法で行われているのか。

#### ○事務局

事前打合せは、これから準備委員会を始めるまでのテーマの決定ということで、内容について地域住民へ知らせていない。1月27日から開催する準備委員会については、須古地区地域づくり協議会設立準備委員会を発足する旨のお知らせと委員会のメンバー案をチラシとして年末に全世帯に配布している。

#### ○委員長

校区住民への情報提供・周知についてはこれから準備委員会の活動の中で行っていくことになる。ここまではまだ打合せ段階だと理解してもらいたい。今年度は大きな豪雨災害が、武雄、大町を中心に起こった。白石町でも被害があったと思う。

#### ○事務局

須古の船野地区が結構大きな被害を受けている。

#### ○委員長

六角川の流域になると思うが、とても我々の想像を絶するような大きな災害だった。このような災害が、今後多発するだろうと言われている。災害に対する防災、減災、そしてなによりも災害があつてからの復興を速やかにできるような強い地域社会づくりが求められていく。これは行政だけでできるものではなく、やはりしっかりとした住民の助け合い、共助が成り立っていないと、災害に強い地域にはなれない。大きな災害の経験もふまえて、今後須古地区も含め、地域としてどのように対応していくのかということもこれからの準備委員会での重要な検討課題になろうかと思う。

今後の大きな方向性として、須古の暮らしの窓口のような協議会を目指したい。つまり、協議会のあり方を地域住民の様々な困りごとの解決の窓口としてイメージしているようで、これは大変重要なことだと思う。役場だけではなくて、小学校区に協議会があるから、暮らしの安全安心、あるいは福祉、子供の教育、地域の歴史文化を守っていくことを考える意味で、協議会が大きな窓口になりうるということを方向性として検討された。他に何か質問・意見はないか。

#### ○委員

準備委員会のメンバーは何人くらいで、年齢的にバランスが取れているのか。

#### ○事務局

人数は28人。平均年齢は分からないが、70歳以上の人も、若い人にも参加してもらおうということで、30歳代の人もある。

#### ○委員長

高齢化社会なので、平均年齢50歳くらいでも若い人が集まっていると思う。委員の男女比はどれくらいか。

#### ○委員

本当は40%くらいを目指したかったが、35%くらいだと思う。

#### ○委員長

良いバランスだと思う。準備委員会のメンバーは順次増えていっても良い。一緒に活動したい、準備委員会に入って頑張りたいというような人がどんどん増えていくことが理想。最初は義務感ややらされ感みたいところで、集まらざるを得ない点があると思うが、会を重ねていくうちに主体的な活動になっていくことを期待している。

#### ○委員

打合せに3つの地域が入っていないと書いてあるがなぜか。

#### ○委員

区長会や公民館長会などの各団体の役職から委員を選んでいたら、団体の中に役職でない3つの地区の人はいるが、どうしても3地区だけ委員としては選出できなかった。メンバーに入っていない地区の人には後で詳しく報告することで了解を得たような形で行っている。本当は全地区を網羅するのがベストだったが、仲間内では今からでも良いから入っていない地区に入ってもらおうようにしていくという話はしている。

○委員長

これから行われる準備委員会は定例か。それともその都度日程調整しながら行うのか。

○事務局

準備委員会でその都度日程調整しながら、場所は主に三近堂コミュニティセンターで行っている。

○委員長

須古地区には、住民が多く集まる場所があるということである。なかなか須古地区での会議の中に入ってみないと分かりにくい点があると思うが、これから準備委員会が立ち上がり、定期的に報告をまとめられると思うので、須古地区だけではなく、検討委員会でも共有できるようにお願いしたい。

(3)「地域づくり協議会」活動に対する支援について

○委員長

「地域づくり協議会」活動に対する支援について事務局から説明をお願いします。

○事務局

(資料5) ○○地区の地域づくり協議会活動交付金算定案として、あくまで仮想の地区で表を作成している。算定方法は、人口割：100円×人口計、世帯割：100円×世帯数の2つを基本として算定する。加えて、モデル事業期間中は、モデル地区支援経費を追加しようと考えている。モデル地区支援経費については、全く何もないところから取り組みを始めてもらい、白石町での地域づくり協議会設立のためのマニュアルづくり、ノウハウづくりのための基礎となってもらうこと、本検討委員会が提言書を策定する上での必要な情報、そして担当職員の経験値の向上・ノウハウの取得にも貢献してもらうことで、モデル事業の実施期間、令和元年度から令和3年度までの指定の地区について設定することを検討している。令和元年度のモデル地区については20万円、令和2年度、3年度の指定モデル地区については、財政状況を考慮しながら決定していく予定だが、モデル地区の募集をする時には、支援経費を決定してお知らせしたいと考えている。そして、モデル地区の支援経費については1回のみ交付ということで、活動初年度か次年度に追加して交付することを想定している。人口割、世帯割については、現段階では地域づくり計画の中で決定した活動をしてもらう間は交付していくことを考えている。

財政面の支援で、最終的にモデル事業期間の終了後には、佐賀市のように地域に交付していた助成金を統合し、コミュニティ活性化補助金として交付する形を目指している。今後まず役場内で検討しながら、検討委員会委員や関係機関に報告したいと思う。

○委員長

今須古地区で地域づくり協議会設立に向けて検討してもらっているが、協議会設立後の運営資金をどのように確保するのか、今回事務局からの提案は、人口割と世帯割で1

人あたり100円、1世帯あたり100円を基礎的な財源とし、さらにモデル地区に対して20万円支援する。資金をどのように使うのか協議会で考え、活用してもらうという考え方で提案だと思う。町の予算に絡むことなので、この場でOKと言ってそのまま通るわけではないと思うが、財政面での支援について事務局からの提案だった。

それぞれ既存の団体の活動経費は、当然従来通りを前提にしているが、地域づくり協議会独自の財源ということの考えである。

なかなかイメージがつかないと思うが、例えば人件費として協議会の会長や事務局長、役員に手当を出すということも協議会で決めることができる。あるいは協議会として何か大きなイベントを企画し校区の人を盛り上げるようなイベント開催経費として使うことも可能。活動交付金の使い道について協議会でしっかりと検討してもらうことが重要になる。他の地域では、独自にお金を稼ぐところも結構増えている。例えば、バザーの収入を協議会で一括して管理する。あるいは道の駅にみんなで共同して作ったものを売って、その収入を協議会の活動費にする。全国的に有名なのは、鹿児島はやねだんという村が、みんなでサツマイモを栽培して焼酎を作り、爆発的に売れて毎年莫大な収入が地域づくり協議会に入ってくるというような事業まで行うところも出てきている。そんなに簡単にはいかないが、自分たちの活動の経費を当然当初は行政からの補助金に依存せざるを得ないが、場合によっては独自で稼いでなんとか地域として頑張っていこうということも可能になると思う。あとお金以外の人的な支援で、今須古地区で行っているように、行政がファシリテーターを派遣する、あるいは様々な資料作りを行う。協議会設立後は役場の企画財政課の職員が積極的に話し合いに参加し協力するような人材面での支援も協議会の設立以降行っていくことを考えている。支援経費は、議会で承認を得ないといけない予算である。議会でも協働の地域づくりについて議論してもらいたいと思う。

### ○委員

活動交付金や地域コミュニティ活性化補助金は白石町独自の財源なのか、国・県等の何らかの補助金を活用するのか。

また、佐賀市の先進事例を視察し、色々な組織を横断的に再編成していくようなイメージがある。佐賀市の場合は助成金を統合し、地域コミュニティ活性化補助金として交付されている。ただ単純に足すだけではなく、無駄なところは見直して、状況によっては統廃合というところもあるのではないかなと思う。ゆくゆくはそこまでイメージしてしまうが、その点はどうか。

### ○事務局

まず財源だが、今のところ想定しているのは一般財源。国・県の補助金は、今現在私が知っている限りではないと認識している。

そして、コミュニティ活性化補助金の考え方としては、佐賀市だけに限らず全国どこでも財政的な問題というものは根底にあると考えている。当然、本町も財政的な問題は

あり、それに対して住民の数や世帯数は減っているがやることは増えている。そのような状況で色々研究し、検討していく時期になっているのではないかと思う。佐賀市は、各団体が協力し話し合っ活動できる「まち協」を進めていて、白石町でも各団体が地区で話し合っ活動し、できなくなったことをお互い助け合うような「地域づくり協議会」の設立を進めていきたいと考えている。白石町における交付金の統合というのは、これから検討していくところなので、どのようなイメージかということは答えられないが、本町も当然財政的な問題があるのでその辺も含めて研究・検討していきたい。

#### ○委員長

私が知っている事例だが、当然従来から続いている既存の活動団体が、市から毎年ある程度一定額の補助金を交付された経緯がある。補助金の交付がこの先も続くのかというような問題もあり、テーマによって違うが、活動団体によっては一貫して補助金が減ってきている団体もある。厳しい状況のなかで、まちづくり協議会に一括して交付すると、協議会が交付金をそれぞれ活動団体で再配分するようなことも決定できる。それぞれ協議会で活動計画を立てて、予算づくりを行う。その協議会の中には、福祉部会、環境部会、高齢者の見守り部会、子どもの見守り部会など色々な部会組織があるので、部会組織のなかで、予算案をあげて協議会全体で検討していく。今過渡期で、全てのまちづくり協議会でできているわけではない。着手しているところもあれば、従来型の各団体への補助金をみんな使っているところもある。将来的には協議会で一括して予算立てから決算まで行うことを目指している。本当に民主的な組織というのは、自分たちで財務管理ができるような組織が、ある意味成熟した組織。それになるのは大変で時間がかかるが、色々試行錯誤しながら進めている事例である。白石町ではどのようにしていくのか、いきなり一括交付金にもっていくのは難しいと思う。まず須古地区準備委員会などでお金の使い方についても検討していくことになろうかと思う。

他に質問・意見はあるか。

#### ○委員

第2回事前打合せの須古の未来で、例えば、文化を引き継いでいく須古というのがあ。そして、第3回事前打合せの須古地区の現状の中で、文化・歴史の欄を見てみると、15地区のうち浮立の伝承ができているところもあれば、できていないところもある。この時に、15地区のそれぞれの課題を解決する方向で動いていくのか、それとも須古全体で、浮立の例で言えば、全体で浮立をする方向になるのか。イメージが湧かないので、方向性があれば教えてもらいたい。

#### ○事務局

基本的には須古地区で地域の住民の集まりやワークショップで話し合っもらい、各地区に浮立があったほうがいいのか、須古地区全体で取り組むことになるのか。自分たちだけで決めることではなくて、全体で話し合っ決めて活動をしてもらうことになる。

#### ○委員長



これから準備委員会等でそれぞれの地区の浮立をはじめとした伝統的な歴史文化をどのように継続していくのか、非常に重い課題があろうかと思う。そのときにやはり、困っている地区があれば、須古全体の問題として考える。何か支援することがあるとしたら、どのような支援ができるのか、須古全体の問題として考えていく。これから小さな行政区でなかなか上手くいかないことが出てくる。小さな行政区でできないことを隣り合う行政区、そして須古の小学校区全体で支え合うような仕組みが1つでも2つでもできていくと、協議会としては良いことだと思う。

#### ○委員

現実に浮立は須古の10か所くらいで行われていると思うが、受け継ぐ子どもの人数が少ない。今回、集まっている時に、いずれは浮立も統合ではないが、他の地区と一緒に活動しないといけないところが出てくるという話をしていた。協議会の意義というのは、例えばレクリエーションのバレーボールの試合で、町から隣の地区と混合チームでの出場も可能と言われている。ところが、いざ混合チームとなるときには、話し合いの場が全然無く出場できていない。今後、協議会で話し合いの場ができれば、その場で一緒に出場してみようというような話もできると思う。

#### ○委員長

テーマごとに行政区を超えて有志が集まることをよく部会形式と言うが、歴史・文化部会、健康スポーツ部会などそれぞれに関心がある人や関連する団体の人たちが集まる。小学校区単位で考えていくと、色々な人たちが関わることができ、新しい人も入りやすい。既存の団体の代表ばかり集まっても、なかなか新しい人はその中に入りにくいということもあるので、既存の団体の活動は大事にしながら、もう少し緩やかなネットワークを作っていくのが協議会の基本的な考え方である。

女性あるいは民生委員・児童委員、高齢者の見守り、子どもの見守り、これだけ高齢化や子どもの数が減っていくと、色々な人たちが関わらないと成り立たない社会。民生委員・児童委員が一人で踏ん張ってもなかなか大変である。民生委員・児童委員をみんなで支えるような仕組みづくりがこれから必要となり、協議会を小学校区単位で作ることを考えていくことになるので、委員も自由に発言や提案をしてもらいたい。

#### ○委員

モデル地区での話し合いがどのように行われているかとても興味があったが、事前打合せの報告書を見ると話し合いがとても素晴らしいと思った。果たして地区の住民だけでできるのかと思ったが、行政の支援があったからこそできたと思う。この先も協議会での話し合いが続いていくと、人が少なくなったというのもそんなに怖くないのではないかと思った。本当に素晴らしいことを私たちに教えてもらってありがたく思う。

#### ○委員長

みんな色々な考えを持っていて、その考えを素直に発言できるような場を作ることが全ての基本である。その場を作った上で、上手く発言を引き出すファシリテーターとい

う役割の人がいる。ファシリテーターが、意見を引き出し、多くの意見を集めていくようなやり方がこれから協議会を作っていく中では必ず必要となる。現在須古地区で行っていることを他の地区でも行わないといけない。須古だけ頑張っただけで終わりではなく、須古をみんなで応援しながら、次はこの地区でこの地区でというように広がりを持たせていくのが、この委員会の非常に大きな役割であると考えているので、どんどん手を上げてもらうことが理想である。

他に質問・意見はあるか。

#### ○副委員長

現在、私たちも行政区として、行政区の交付金等を活用しながら頑張っただけで運営している。今ある行政区と協議会との兼ね合いはどうなるのか。

#### ○事務局

リーフレット等にも書いているが、基本的に既存の団体はそのまま継続して活動も継続していく。先ほどから話が出ているように、それぞれ地区内にある団体の話し合いの場と考えてもらいたい。

#### ○委員長

基本は行政区である。行政区にしっかり活動してもらいたい。とはいえ、人口が減り、高齢者が増え、役員のなり手もなく、1つの行政区だけでは解決できない課題はたくさんあると思う。そのような問題を、小学校区単位で考えて助け合えないかというのが基本的な考え方である。それは行政区に限らず、色々な既存の活動団体もそうだと思う。この際、それぞれの行政区や活動団体をみんなで総点検してみるというのが今回の協議会づくりの考え方としては分かりやすいと思う。頑張っているところは今まで以上に頑張ってもらえると思うが、これからどうしてもなかなか活動が停滞してしまう団体も増えてくる可能性もあるので、そういった問題の解決のために協議会組織を考えていると理解してもらいたいと思う。

他になければ、本日予定した協議事項は以上となる。今後の予定等について、事務局にお返しする。

## 4. その他

#### ○事務局

第10回検討委員会は3月18日19時からの開催を予定している。年度末で何かと忙しい時期だと思うが、今年度最後の委員会となるので、出席をお願いしたい。

## 5. 閉会

午後8時3分 閉会